

V 領域横断連携の研究会

V-1 宮本文庫研究会

(1) 宮本憲一氏収集資料のデータベース構築と環境政策形成史研究の公表

碓山洋

2017年度から科学研究費補助金（基盤研究(B)）を受けて、共同研究「宮本憲一氏収集資料を活用した環境政策形成史に関する研究」（研究代表者＝碓山）を進めてきたが、2019年度はその最終年度であり、研究のとりまとめと公表に以下の活動を行った。

(1) 宮本憲一氏収集資料のデータベース化

本研究の大きな柱として据えられた宮本憲一氏収集資料のデータベース化であるが、資料の膨大さと独自性、複雑性などのために、整理・データベース化に独自の手法の開発が必要であり、難航した。2018年度に「可塑型・初期化可能型アーカイブ」の手法を開発し、2019年度は、この手法による資料のデータベース入力と物理的状態のデジタル映像保存を基本的に終えることができた。

公開方法については、金沢大学中央図書館と協議しつつ検討する。現時点では、本研究の研究代表者・研究分担者のみの利用に制限している。

(2) 研究会・市民公開セミナーの開催

11月9日（土）、10日（日）に、3年間の研究成果を公表する報告書（後述）の内容について検討する研究会を開催した。研究会では、研究代表者・研究分担者それぞれが、報告書に収める研究成果の要旨について発表し、討論を行った。

11月10日（日）午後には、日本環境会議との共催で、市民公開セミナー「宮本憲一文庫と環境研究の継承」を開催した。以下の発表を受け、討論を行った。

- ・寺西俊一「戦後日本の公害・環境問題研究と“宮本経済学”の意義」
- ・永井進「公害の政治経済学とは何だったのかー宮本憲一と都留重人の業績を振り返る」
- ・佐無田光「サステナビリティの政治経済学ー宮本経済学から地域研究への示唆」
- ・土井妙子「四日市反公害運動家・澤井余志郎の思想形成ー訓覇也男との交流に着目して」

(3) 研究成果報告書の公表

3年間の共同研究の成果物として、報告書『日本における環境政策の形成に関する研究』を2020年3月に公表する。（タイトルは1月31日時点の仮題）

研究代表者・研究分担者全員の論文に加え、下記の6氏からも寄稿を受ける。

- ・宮本憲一（大阪市立大学・滋賀大学名誉教授）

- ・磯野弥生（東京経済大学）
- ・森裕之（立命館大学）
- ・清水真帆（大正大学）
- ・大森賢人（株式会社ミカミ）・除本理史（大阪市立大学）（共著）（敬称略）